

- ソメイヨシノ相川も開花宣言 新潟地方気象台  
[新潟日報 2007年 4月10日]
- 暖冬演出 サクラそろい踏み (群馬県館林市の「野鳥の森フラワーガーデン」で37万株のシバザクラとソメイヨシノが咲き、サクラの共演)  
[朝日新聞 2007年 3月10日]
- あでやかピンクに酔う 満開夜桜にぎわい 上越高田公園  
[新潟日報 2007年 4月12日]
- 見ごろの桜満喫 悠久山まつり 長岡  
[新潟日報 2007年 4月12日]
- 幸せ放つ桜 今年も満開 移植3季目 順調に定着 新大歯学部前  
[新潟日報 2007年 4月12日]
- 春の色 風に揺れ しだれ桜週末見ごろ 新潟・東区 (新潟市園芸センター)  
[新潟日報 2007年 4月13日]
- 桜に包まれ 真っ盛り 上越  
[朝日新聞 2007年 4月13日]
- 桜 乱舞 新潟 強風で散り始め  
[新潟日報 2007年 4月15日]
- 待ちわびた風情ここに 小千谷船岡公園 3年ぶり花見  
[新潟日報 2007年 4月17日]
- 桜の下 美競う 分水おいらん道中  
[新潟日報 2007年 4月19日]
- 散り際去り際 有終の美競演 神林のお幕場大池 桜とハクチョウ仲良く  
[新潟日報 2007年 4月19日]
- ウソにもめげず花見給食 佐渡 (鷲崎の内海府小学校)  
[新潟日報 2007年 4月20日]

原沢英夫 (2007)

気候変動と生態系の変化. 河川 1月号: 48-51.

山崎 登 (2007)

「異常気象と情報」. 河川 1月号: 59-64.

## 阿賀町津川のおける積雪期の開花植物

齋藤久夫

近年の気候は年間を通じて乱れている。今冬(2007)の少雪は未だかつてない記録で、阿賀町津川で1~2月に積雪が無い状況は、はじめてのことと思われる。こんな中で、例年は雪に覆われ休んでいる草本の中で芽吹き、開花しているものが目に付いた。観察例は少ないが報告する。

1/5 [街の空地]

アカミタンポポ (花)・フキノトウ (芽生え)

2/3 [ハーバルパーク]

マルバマンサク (花)

[新善光寺墓地]

オオイヌノフグリ (花)・オランダミミナグサ (越冬)

[畑]

ミチタネツケバナ (花)・コハコベ (花)・スズメノカタビラ (花)・アサツキ (芽生え)

2/27 [上ノ山区]

ニワトコ (芽吹き)

3/9 [上ノ山区]

ヤブカンゾウ (芽生え)・ヨモギ (芽生え)

3/23 [街の道端]

ヒメオドリコソウ (花)・ツクシ (芽生え)・アカミタンポポ (花)

3/24 [きりん山]

ミチノクエンゴサク (花)・セントウソウ (蕾)・ヒメカンスゲ (花)・オオハナウド (芽生え)・マルバゴマギ (芽吹き)・ヒョウタンボク (蕾)・ケナシヤブデマリ (蕾)・ツルシキミ (蕾)・ナニワズ (花)・オクチョウジザクラ (花)・キクザキイチゲ (花)・ケキブシ (花)・アズマイチゲ (花)・コシノカンアオイ (花)・タチツボスミレ (花)・マルバマンサク (花)

4/6 [きりん山]

カタクリ (花)・ケアブラチャン (花)・ミヤマキケマン (花)・コシノコバイモ (花)・モミジイチゴ (花)

今冬は、1~2月の気候から春の到来が早くなると思われたが、3月に入り寒の戻りがあり、通年の様子に戻った感じがした。

積雪が無くとも、一般的には、活動する植物は少ないが、時には凍る寒さの中で草丈も伸びないのに開花する小さな草たちの繁殖にかける生命力には感服してしまう。

2006年秋の結実不良の植物

写真撮影の目的で阿賀町内での観察をした中で、次の種の結実が不良だったが、これほどの不良年は今までに無かったと思われる。

結実なし (毎年多数結実) ケンボナシ・イイギリ

結実非常に少ない コナラ・ミズナラ・キカラスウリ

## 魚沼市干溝 (私信より)

富永 弘

干溝の山の雪も、いつもより1月以上も早く全て消える

ところ。この春気付いたこと（印象：科学的な根拠なし、因果関係計測なし）3点、記してみます。

- ① 少雪だったが、ユキツバキの枯れた姿は目にしていない。しかし、落葉が目立ったような印象がある。
- ② 今年は、ゼンマイの収穫が多かった。それもいつもより太いものが多かった。……村のバア様方のことば。私も両親も同じ印象を受けています。
- ③ 家の裏に何種類かのシダを、山から移植しています。数年を経っていますが、今春は葉柄も太く勢いが盛んです。

## 南魚沼郡湯沢町

佐藤 政二

雪国湯沢の2月の雪消えの早さは1990年以來のことで、17年ぶりであります。下旬には南面する急斜面の地肌が現れて、春の胎動が見られるようになりました。湯沢で今年初めて開花を確認したのはマルバマンサクで2月28日、魚野川沿いの里山でした。

3月4日には、清津川の二居でアオイスミレが花より小さな葉を2枚つけて開花しました。8日には、湯沢の東山でスハマソウが新葉を見せないで咲き始めました。近くではカタクリが花茎を伸ばしながら、葉を広げようとしていました。以前湯沢の里山でスハマソウの開花を確認したのは4月上旬のことで、新葉も伸ばし始めていました。周囲にはヒトリシズカ・エチゴキジムシロ・ミヤマキケマン・コシノホンモンジスゲなどが開花していました。

その後は一転寒の戻りの冬日で、雪また雪の日々となり、里山でも50cm以上の積雪となりました。窓の外に舞い降りる雪を見ながら、花の標本の紙換えをしていると、標本の花が凍りついていくように見えてきます。残雪に覆われている場所がほとんどの、3月23日の湯沢では、オオニワトコがつぼみと細い葉を雪のうえに復活させていました。

二居のアオイスミレが再び現れたのは3月29日で、雪のように白い花をつけていました。

里山の雪が消えた4月も春暖の日が続くことすくなく、陽だまりの温もりを感じませんでしたが、4月2日の広河原ではヤナギ・ダンコウバイ・ケキブシ・アオイスミレ・コチャルメルソウ・エンレイソウの開花を見ることができました。また、4月10日の滝の又ではヤマアイ・ヤマエンゴサク・ツルネコノメソウ・ホクリクネコノメソウ・チシマネコノメソウ・コシジタネツケバナ・ハシリドコロ・タヌキランが開花していました。4月14日の小久保沢でアズマイチゲの開花に出会いました。幾年も湯沢を歩いているのに初対面でした。

4月の末に二居でフモトスミレ、湯沢でエイザンスミレ・マキノスミレ・セントウソウが開花していました。いままで、ゴールデンウィーク明けから5月末にかけて開花を確認していました。今後も植物のうちに秘めた対応の姿を見つめていきたいと思っております。

## この春、気になった佐渡の植物

渡辺 洋子

暖冬と思っていた所が、2月の下旬から急に寒くなり、その後、暖かい日が交互に来るなど、植物もとまどって早く咲くもの、遅く咲くもの、まちまちの感を受けました。

大野危のトビシマカンゾウも、今年は色こそ濃いのですが、背が低く、花も小ぶりでした。例年同じ頃に咲くカラマツソウやオオハナウドはすでに花が終わり、アサツキは花色も浅く、小さくてきちんと開花しないのも、多数あるように思われました。

その他にも気づいたことを少し拾ってみたいと思います。

4月7日杉池へ行ったのですが、ユキツバキの蕾がとても少なく感じられましたが、伸には茶色く変色した小さな固い蕾がいっぱい下に落ちている木もありました。昨年12月15日新穂大野の清水平の辺りを歩いていた時、ユキツバキの花が落ちているのに驚きました。よくみると、その木には開きかけの蕾をつけた木が見られ、春の開花期に再度行ってみようと思いながら、そのままになってしまいました。杉池へは5月7日再び行った時、ユキツバキは満開ではありましたが、全体に小さい花が多く感じられました。

1月1日、加茂湖畔の樹崎を散歩していると、樹高7～8mのイヌザクラの木に一面に蕾がついていて、枝先には若葉の出ている木がありました。この木の周辺が特別暖かいのか、近くのキタコブシも蕾がふくらみ、キタコブシの花芽は正月見た時と変わらぬ状態にみえましたが、イヌザクラの方は葉も蕾もすっかり落ちてしまっていました。

正月の時、イヌザクラとキタコブシの枝を持って帰って、窓辺の暖かい陽の当たる場所に置いたのですが、面白いことに、キタコブシは4・5日で、曲がりなりにも開花したのですが、イヌザクラは蕾の先が割れて白い花びらが見えているような蕾もあったのに、とうとう1個も開花しませんでした。

その後、5月8日に樹崎に行くと、カスミザクラやウワミズザクラ、コバノトネリコ、レンゲツツジ等は花が咲いていましたが、イヌザクラの木にはほんのわずかの蕾しかついていませんでした。